

ぱっちゃん ぽーん

ぱっちゃん ぽーん

いきおいよく

水の あわが はじけるように

ぽんぽん 神さまが 生まれました。

いちばん さごい

とびだしたのは

「いぎなぎ」

という 男の 神と

「いぎなみ」

という 女の 神。

空の まんなかの 神さまが

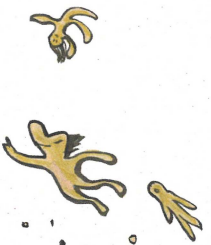
ふたりに 語りかけました。

「あめの ぬぼこを さごあげよう。」

ふたりで 手と手を とりあって

すてきな 国を 生みなさい。

ゆたかな 国を 作りなさい。」



「わかりました！」

にじのはしから

見おろすと、

どぶーん

と

どろのような海。



「あめの ぬぼこを

かきまわそう。」

リズムに あわせて

こーろ こーろ

ぐるぐる かきまぜ

こーろ こーろ

そして ぬぼこを ひきあげると

しずくが ぽたり ぽた ぽたり



つもりつもりで できたのが

ちいさな ちいさな

おのころ島。

「なあ、この島に おりたって

すてきな 国を 生みましよう。」





島のまん中にふとーい柱が。

いざなぎは左まわり、

いざなみは右まわり。

ぐるっとまわって出会ったら

まずいざなみがいました。

「まあ、りっぱなあなたさま。」

そのあといざなぎがいました。

「ああ、かわいいおひめさま……。」

うん、しゅくりこないなあ。

男のぼくがさきにいらおう。

ぐるっとまわってやりなおし。

いざなぎがさきにいました。

「おやおや、かわいいおひめさま。」

ついでにいざなみがいました。

「あらあら、りっぱなあなたさま。」

すてやぶつうごまろ。

つぎつぎと島が生まれました。

「あ、いごも島が、いごごも島が。」

よーし、名前をつけまてやろう。

生まれた順に、あわじ島、いなの島……そして、

おおやまととよあきつ島。

ぜんぶあわせて

おおやしまの国、

わたしたちの国が

できたのです。

